令和5年度　学校評価報告書
島根県立松江南高等学校

【4段階評価】A:十分に達成できている状況，　B:概ね達成できている状況，　C:どちらかといえば達成できていない状況，　D:ほとんど達成できていない状況
【肯定的評価(%)】＝わからない(実態が分からない)を除いた回答総数(①＋②＋③＋④)における肯定的意見(①＋②)の割合
【評価値】アンケート(回答)　①そう思う(良い)⇒4点，　②大体そう思う(ほぼ良い)⇒3点，　③あまりそう思わない(あまり良くない)⇒2点，　④そう思わない(良くない)⇒1点，　⑤わからない(実態が分からない)

教育目標	重点目標	分掌	学校評価実施項目	学校評価質問項目	肯定的評価(%)			評価値			自己評価		学校関係者評価	
					教職員	生徒	保護者	教職員	生徒	保護者	評価	概評と改善策	評価	概評
【校訓】質実剛健・創造進取・和敬共栄	【ミッション】グローバル社会を生き抜き、その持続可能な発展に貢献する志の高い人材を育成する 【目指す学校像】 主体的・探究的な学びを推進し、地域の進学拠点校として信頼される学校 ◇ 生徒に多様な学びや体験の機会を提供し、高い「学力・社会力・人間力」を育成する学校 ◇ 授業改善、探究的な学びを推進し、生徒の挑戦と進路実現を支援する学校 ◇ SSH事業、探究科学科、単位制導入などの改革に、進取の気概をもって取り組む学校 ◇ 教職員が責任と誇りを持ち、保護者、地域と共に「チーム南」で魅力化を進める学校 【育てたい生徒像】 ◇ 心身ともに自立し、知識・技能を習得・活用してより深い学びを主体的に実践する生徒 ◇ 課題の解決や新たな価値の創造に、他者と切磋琢磨し協働して取り組む生徒 ◇ 学びを通じて自らのフィールドを見出し、気概をもって挑戦する生徒	総務	PTA活動	本校のＰＴＡ活動は活発に行われているか。	93.8	－	92.1	3.1	－	3.1	B	今年度はPTA活動についてコロナ以前のような活動を行うことができた。今まで例年通りとしていた活動を見直し、廃止や変更など今までにない工夫ができた。研修部では、保護者対象の学食食事会や研修旅行など、今後も活発に活動していきたいと思える企画を行うことができた。生徒指導部会や進路指導部会においては、今後の活動を見直したり、新たな協力をいただいたりして生徒支援を充実させる企画が立案された。来年度に向けて保護者との協力体制をいっそう強めていきたい。	B	コロナ禍で縮小していた事業を再開させ、従来に近い活動まで戻した。保護者向け研修視察も再開するなど、活動の幅が広がったことは評価されるべきと考える。ホームページで必要な情報のサイトになかなかたどり着けないというのは、よくあることだが、受検生やその保護者を特に対象としたホームページの内容になっているか気になった。ターゲットを絞った方がよいのではないかと思う。生徒指導のところで部活動にめざましい成果があったと書かれているが、それがホームページで探しにくいし伝わりにくいのではないかと思った。コロナ後の活動再開を機に、これまでのPTA活動について見直しが行われ、整理されたり内容に手を加えたりしたことは大いに評価できる。今までにない工夫をすることはとても大変なことである上、積極的で活発な活動が見受けられるためA寄りのB。
			情報発信	適切に情報発信を行うことができたか。	92.0	－	83.7	3.0	－	3.0	B	情報発信の対象が明確でなく、わかりにくかったので、保護者対象に定めて取り組みたい。HPの更新について、学校業務が多く、部活動の情報発信まで手が回らないという教員がいるので、ICT支援員のサポート協力を検討したい。ホームページ更新がはかどるようサポート体制を確立したい。		
		教務	主体的な学習活動	授業展開を工夫し、生徒が主体的に学習する姿勢を育成することができたか。	94.1	90.4	85.3	3.1	3.3	3.1	B	本校のつけたい資質・能力の１つである「主体性」については、本校の授業評価アンケートの項目として、また学習成績上における観点別評価の一つとして、各教科の指導の中で意識されるようになってきた結果として、教員・生徒間の評価が向上したと考えられる。引き続き授業改善委員会での協議等を通じて各教科と連携し、主体性を育む授業展開の工夫や週末課題の精選等を図って、生徒の主体的な学びが進むよう取り組んでいきたい。	B	家庭学習においては個人差があると考えるが、全体として生徒個々人の学力の底上げは計られていると評価する。保護者の期待する学力向上とは何かを把握する必要がありはしないか。基礎学力の定着には、授業に加えて家庭学習の習慣化が必須と考える。保護者の肯定的評価が教職員や生徒に比べて低いのは、家庭学習が十分には確立していないからであろうか。教職員と生徒の評価が高いが、保護者の観点からすると若干評価が低く、同時に基礎学力の定着についても同じことが言える。具体的な解決方法を挙げているので、今後一層期待したい。
			基礎学力の定着	生徒の学習を支援し、個々の学力の向上を図ることができたか。	86.0	89.1	78.8	3.0	3.2	3.0	B	「個々の学力の向上」という点で、生徒評価と保護者評価に差が生じたように思う。日々の授業を通じて基礎学力を育成しながら、学力層に応じた指導を実践していきたい。また、生徒自身は、向上心を持って、自身の学習への取組を肯定的にとらえ、努力していると思われるので、その意欲をさらに喚起できるよう、学習支援を続けたい。		
		生徒指導	基本的生活習慣	生徒の10分前登校の習慣化をはじめ、生徒自身が時間管理をできるよう、指導をすることができたか。	47.7	76.9	62.1	2.5	3.0	2.7	C	10分前登校など時間の管理に関する指導の徹底がなされていなかった。10分前登校に限らず、授業の準備や家庭での時間の使い方など見通しを持った行動ができるよう指導し、基本的生活習慣の確立につなげていきたい。生徒自身が時間管理ができるようになりメリハリのある高校生活が過ごせるよう支援したい。	B	大きな事故なく一年間が終了できたこと、部活動での創立以来の成果を上げたことなどを踏まえ、全体としてはB評価とした。遅刻する生徒がいるのはやむを得ないことであり、あまり神経質にならなくてもよいのではないか。保護者のとの連携のもとで生活習慣の確立を促す工夫が必要ではないか。「諸活動への積極的参加」の肯定的評価において、教職員と生徒・保護者の間で少し開きがある。特に保護者に関しては、活動についての情報発信が十分でないことの表れかもしれない。人間関係づくりのためのホームルーム活動とあるが、教職員間では同様の研修がなされているのか。教員と生徒で評価に開きがある「基本的生活習慣」「規範意識」について、開きがある理由や背景を丁寧に把握する必要あり。「基本的生活習慣」について、理由や背景によっては、指導の徹底が逆効果や意味をなさないこともあるのではないか。
			規範意識	交通ルールをはじめ、公共のルール・マナー向上につながるよう、指導をすることができたか。	80.4	96.4	91.2	2.9	3.6	3.1	B	学校周辺で接触事故が数件発生した。事故が発生した際の対処方法や連絡・報告先など記した「交通事故対応カード」を作成し、生徒全員に配布・携行するよう指導した。交通事故防止・マナー向上の啓発につながったのではないかと考える。学園祭でのスマートフォン利用のルール作りや周知については生徒が主体的に取り組み、素晴らしい成果を上げたと感じている。交通事故防止・交通ルール遵守をはじめ公共マナーの向上に生徒とともに取り組んでいきたい。		
			諸活動への積極的参加	部活動をはじめとする様々な活動への生徒の積極的な参加を促し、生徒の自主的な取り組みを支える指導をすることができたか。	96.1	87.9	88.2	3.3	3.4	3.3	A	部活動についてめざましい結果が出ている。各部活動顧問の指導・支援の賜物である。運動部はもちろん文化部においても募金活動、フードバンクや昼の放送など新しい試みに挑戦するなど、身の回りの生活課題に前向きに取り組み活発に活動している。生徒会は学園祭でスマートフォンの使用ルール作りや周知の方法など生徒会が主体的に取り組み成果を上げた。今後とも生徒が様々な活動に主体的に取り組めるよう支援していきたい。		
			いじめ対応	様々な教育活動を通して人権意識を高める取り組みができたか。	92.3	93.9	90.3	3.1	3.4	3.1	B	人権・同和教育をホームルーム活動を中心に組織的、継続的に行うことができている。ただ、生徒間での配慮に欠ける言動がまだまだ散見される。教員の生徒に対する言動も含めて、今後も互いの人権を尊重しあった、適切な人間関係が築けるよう、指導して行きたい。来年度以降は、１年時に人間関係作りのためのホームルーム活動を増やしたい。		
		進路指導	計画的なキャリア教育	生徒が自分の将来の職業、資格、働き方、進路などを考えたり決めたりできるように、授業、HR活動、学校行事および進路講演会が行われているか。	92.3	94.9	89.4	3.1	3.4	3.2	B	各学年の進路学習の充実を図り、３年間を見据えた指導を構築している最中である。今後は、一つずつの活動（進路学習・講演会・ＨＲなど）が、目的とつながりのあるものにしていきたい。そのためにも進路指導委員会での意見をもとに進路指導部が原案をデザインし、共有したうえで学校全体の取り組みになるようにしていきたい。	B	PTAの進路講演会などをはじめ、保護者と一緒に進路について考える機会を節目節目にもたれており、概ね良い成果があがっていると認識している。きめ細やかさが肯定的評価に表れていると思う。
			実効的なキャリア教育	生徒が自分の進路を研究したり決めたりするために、進路に関する資料の提供や相談・面談など、生徒一人ひとりに応じた進路指導が行なわれているか。	94.1	94.4	87.0	3.1	3.4	3.1	B	各学年、各Ｒ担任は時間をやりくりしながらきめ細かに生徒と面談している。今後はさらに学年や時期に応じて生徒・保護者に意識してもらうことや知ってもらうべきことを教員間で情報共有して温度差のない指導につながるようノウハウを共有したい。		
		教育開発	探究的な学び	「未来創造リサーチ＆アクション・プログラム(RAP)」、「データサイエンス(DS)」、「総合的な探究の時間」において、生徒が主体的に自分の「進路」や「将来の生き方・あり方」について考えを深める取り組みが行われているか。	76.6	95.1	85.6	2.8	3.4	3.0	B	より深い学びへとつなげるため、テーマ設定の早期化による探究活動期間の増加、生徒の進路に関連したテーマ設定を意識したい。「データサイエンス」の捉え方のより一層の弾力化（データを作ったり読んだりする力）を図ることで、教員、生徒ともに柔軟に探究活動を行えるように改良していく。SSHでつけたい力であり、ルーブリックで達成度を測っている「未来構想力」「未来探究力」「未来行動力」を来年度からは評価項目に含めていきたい。	B	RAP、DSに関しては、年間学習時間に対して相当のコマを割いて取り組まれており、また、テーマに対する成果も良いものが多く出来上がっていると認識している。SSHとの関連もあるだろうが、RAPやDSを取り込んでいること自体を評価すべきと思う。生徒が大学に進学しても学んで知識を忘れることがないよう身につく工夫をしていただければと思う。探究的な学びの発表会で、生徒の姿を伺う機会を設けていただき、感謝する。南高の生徒らしさが感じられ嬉しく思う。外部連携とのあり方が課題。生徒の評価は高いので、教職員はもっと肯定的に捉えてよい。自信を持ってほしい。
			社会に開かれた学び	同窓会・大学・地域等と連携しての、生徒たちの「探究的な学び」を支える取り組みは行われているか。	86.0	88.6	77.6	3.2	3.2	2.9	B	現在、探究活動には学生TAや大学教員に関わっていただいているが、企業・地域との連携もすすめ、どのグループも積極的に外部とつながって活動をすることが普通となるようにしたい。１年生のSDGsと科学技術フィールドワークの時期を早めて、早い時期から外部と連携する機会を増やしたい。		
	【本校の教育活動】 自立した学び・個別最適化した学び・多様な他者と協働する学び ～知の循環で一人ひとりのワクワクとWILL(意志・未来)を拓く～ ◇ 知る学び･･･教科の基礎的な知識・技能の確実な習得と、それらを自在に応用できる総合的かつ高い学力を育む ◇ 創る学び･･･SSH事業を活用した探究型学習と多様な教育プログラムにより、「新たな価値を創造する力」「学びを発展的に活用する力」を育む ≪育てたい力≫ ＊読解力･･･情報を正しく読み取り、解釈し、理解する力 ＊思考力･･･グローカルで幅広な視野と文理融合で柔軟に考える力 ＊主体性･･･自らの意志で目標を決めて取り組む力 ≪重点的な取組≫ ＊SSHを柱とした、全校体制での教育魅力化・特色 ＊授業改善～探究的な学びの推進、ICT・学校図書館活用 ＊部活動・生徒会・地域活動等をとおした人間力・社会力の育成 ＊安心・安全な学びの環境づくり	保健	健康指導	「保健講話」や「保健だより」を活用して、生徒の心身の健康増進を図っているか。	98.0	85.0	－	3.4	3.1	－	B	「保健講話」、「保健だより」を各学年の保健委員も参加し、行事や季節の変わり目の健康管理について予定どおり発行できた。生徒が自身の健康管理を意識できるように工夫を重ねたい。	B	心の問題で登校できない生徒が散見されると聞いており、体の健康だけでなく、心理的ストレスなどへの対応を、もっと強化すべきと考える。校内美化については、来校時に目にする範囲では、概ね良好な状態が保たれていると認識している。特別な支援や配慮を要する生徒への対応は今後ますます重要になってくると思われる。早めの対策が望まれる。日常の活動の中に、生徒を育てる機会がたくさん含まれていることを強く感じる。先生方の評価と生徒の意識の差をどうやって埋めていくのかが明確にされることが大切だと思う。方法の改善と継続を意識して実践したいところだ。環境美化意識が例年と同じく低いことが気になる。新たな視点から、啓蒙活動を考えてみてはいかがか。（セミナー、講演会など）「環境美化意識」について、生徒の肯定的な評価を、アンケート結果や自己評価から教職員があまり評価しておらず、「C」評価で、清掃指導を行うという一方で、教職員の評価は高いものの、生徒の評価が低い「健康指導」「教育相談・特別支援」は「B」評価。コメントも薄味。教職員の受け止めが甘いと感じる。注力すべきは、こちらの２項目ではないか。
			環境美化意識	清掃指導を通して校内の美化意識を高める取り組みができているか。	78.4	93.0	－	2.9	3.4	－	C	生徒の肯定的な結果は、十分に清掃をしていないことを清掃監督から指摘や指導をされず、清掃を十分にしていないことに気づいていないことも一因だと思われる。教員はたくさんの業務を抱えて忙しい日常ではあるが、清掃時間には清掃監督場所に行って清掃指導し、清掃を通して生徒と関わるようにしたい。美化意識を育てることはもちろん、生徒の授業とは異なる一面を知る機会にもなると考える。		
			教育相談・特別支援	多様な生徒に対する相談や特別支援の必要な生徒への支援に努めているか。	92.2	70.7	80.4	3.1	2.9	2.9	B	SCについては、１，２学期毎回希望者が多く、予定が埋まることが多く、各クラスに案内ができない状態だった。保護者が利用できることもさらに周知していきたい。特別支援教育については、通級を計画的に進めている。初年度のため、今年の反省点を来年度に活かしたい。		
		図書	図書館活動	生徒が本に親しみ、自ら考え学ぶ姿勢が身につくように、読書や探究的な学び（地域課題研究、ポスターセッション、課題研究等）への支援を行っていたか。	95.9	91.4	－	3.4	3.4	－	A	今後とも様々な手法を駆使して、効果的な情報発信をしていきたい。	A	ホームページで図書館活動を探しにくかった。高い自己評価の活動はホームページでも探しやすくしてほしい。教職員生徒ともに高評価、今後ともより良い運営をお願いしたい。
			図書館活動	生徒の視野を広げ、豊かな感性を育むことができるように広報（刊行物・掲示等）や図書委員会活動やイベント（ビブリオバトル、コンサート等）の運営を工夫して行っていたか。	100.0	95.3	－	3.5	3.4	－	A	図書委員会が作成したデジタルポップなど新しい取り組みができたことは評価したい。今後も工夫していきたい。		
		1学年	生徒理解と人権意識の高揚	生徒がお互いの多様性を認め合い、理解し合い、豊かな人権感覚を身につけることができるよう、指導に努めているか。	89.7	93.2	88.6	3.1	3.4	3.1	B	あらゆる機会を通じて生徒理解と人権意識の高揚に努めたが、人間関係のトラブルを自ら解決するスキルを身につける点では不十分であった。今後は、面談の機会を増やし生徒理解を深めるとともに、ソーシャルスキル向上へ向けた指導を充実させてゆきたい。	B	高校生としての自覚を持たせ、高校生にふさわしい生活態度や学習の姿勢を育成するのは難しいと思われるが、よく取り組んでおられるように思える。１学年における基本的生活習慣の確立については、高校側からの指導ももちろんあるだろうが、基本はやはり各家庭で身につけさせるべきことではないだろうか。生徒への働きかけを多岐に渡りなされている一方で、生活習慣の確立には課題があり、今後に期待したい。
			学びに対する粘り強い姿勢	生徒が「学ぶことの意味」を考え、学びに対して粘り強い姿勢を身につけることができるよう、指導に努めているか。	92.7	93.1	82.0	3.2	3.4	3.0	B	学習につまづいた生徒に対して、個別に声がけしたり指導したりすることで、学習意欲を高めるよう努めたが、学びの意義について理解できず学ぶ意欲が低下する生徒もいた。学ぶことそのものの意義を、日々の学校生活の中で感じることができるよう、働きかけてゆきたい。		
			基本的生活習慣の確立	生徒が自律的な生活を確立できるよう、指導に努めているか。	87.2	92.0	86.6	3.1	3.3	3.1	B	遅刻が多く、基本的な生活習慣が身についていない生徒もいた。自らの生活を自分の力で律して行けるよう、継続的に指導してゆきたい。		
		2学年	相互尊重と集団意識の醸成	生徒がお互いに思いやりをもち、協働できる集団づくりの支援を行えているか。	95.7	92.3	90.1	3.2	3.3	3.1	B	学園祭、部活動、普段の授業等で協働する場面が多くあり、互いの意見を尊重しながら活動する姿がよく見られた。モラルやマナーが守られた中で互いを高める活動が出来るよう、今後も教員間の連絡を密にして支援を続けたい。	A	一年次には十分とは言えなかった学習面での探究心が身につきだしたことはもっと評価してよいと思う。SSHの成果発表会で、今年度の取組について聞かせていただいた。研究への取組を通して、生徒が成長していること、学びに対する姿勢が変化していることを感じた。数字・自己評価ともに高く、２年生への指導は非常に充実した内容であると考えられる。
			探究的な学習活動支援	生徒たちが探究活動や課題研究に意欲的に取り組み、問題解決に貢献する行動力を身につけられるよう支援を行えているか。	97.9	94.2	88.6	3.2	3.3	3.1	B	課題を発見しテーマを決め、仮設に関するデータを集め分析した上で発表する経験ができた。プレゼンの資料作成方法や発表方法の研修にも参加できた。３年次のアクションに向けて、２年次の活動の振り返りを支援していきたい。		
		3学年	相互尊重と集団意識の醸成	生徒がお互いに思いやりをもち、協働できる集団づくりの支援を行えているか。	95.3	94.5	91.7	3.1	3.4	3.1	A	生徒たちは、様々な行事で協働しあいながら活動をすることができた。特に、学園祭ではクラス合同での実施の中素晴らしい活躍を見せてくれた。	A	受験に向けた意識付けとして、クラス全員で勉強に向かう環境づくりが配慮され、成果を上げたと評価する。家庭学習と授業の結びつきについての強い意識づけとは具体的にどのようなことを言うのか気になった。最終学年の集大成として、素晴らしい指導状況であると感じた。
			学習サイクルの確立	生徒が日頃の授業と充実した家庭学習で進路実現を意識した学習サイクルを確立させ、継続させる支援を行えているか。	90.7	94.2	90.5	3.0	3.3	3.2	A	先生方の日々の授業のおかげで熱心に学習することができた。進路だよりや進路学習を通してゴールを意識したサイクルの構築を支援することができた。家庭学習と授業の結びつきについてもう少し強い意識づけをさせるべきであった。		
														全体的に生徒の方の自己評価が高いことがすばらしい。